

コンサートなどのチケットはかなり前からオンラインチケットのみに統一されており、展覧会のチケットも近頃はオンラインが増えてきています。でも、今もデザインに工夫を凝らして、その都度新しく作るのが展覧会チケットの主流。プレイガイドのショーケースにいろんな展覧会チケットが並べられ、それぞれに個性を競っているのは皆さんご存じのとおりです。ところでこの展覧会のチケット、どれもほぼ同じサイズで作られているようですが、長さはかなり違いますし、幅の狭いものから広いものまで、さまざまなものがあります。

愛知県美術館でも、以前は展覧会ごとに異なるサイズのチケットを作っており、おおむね最近のものよりかなり縦に長いかたちでした。当時よく会場入口のスタッフから「お客様が半券のないチケットをお持ちなのですが…」という連絡がありましたが、その原因はチケットを財布や小さなバッグに収納するとき、そのままだと長すぎるのでミシン目のある半券のところから折って入れることによるものだったようです。紙幣の出し入れなどを繰り返しているうちに半券が外れて紛失してしまうのでしょうか。かといって、ミシン目をなくせば受付での切り離しが大変だし、さてどうしたものか…？そこで閃いたのが、「一万円札と同じサイズにすれば、半券部分を折らずに財布などに収納できる！」というアイデアでした。それ以降、当館のチケットはできるだけ一万円札サイズで統一することにしました。一般的なチケットよりちょっと寸詰まりで幅広な感じにはなりましたが、扱いやすいサイズになっているのではないのでしょうか。それ以降、半券のないチケットをお持ちになるお客様がずいぶん少なくなりましたので、その効果は大きかったようです。



▲クレー、ステラは今見るとかなり長い！エルンスト、魔術美術、ポロックは一万円札と同じ長さで幅はやや狭く、応挙、クリムトは一万円札と同じ幅でほんの少し長めです。

一万円札サイズのチケットは、一般的なものより数センチ短いのですが、これが意外に大変でデザイナー泣かせのようです。チケットのメインビジュアルに使う作品によってはおさまりの悪いこともあります。展覧会のタイトルや基本情報をはじめとするテキストも多く、これら全てをあの小さな紙面に配置し、上手くデザインするのはなかなか難しいことなのです（そのためかこのところまた一万円札より数ミリ長くなっていたりしますが…）。前売り券を入手されたとき、またご来館の折りに、当館のチケットを一度じっくりご覧になってみてください。



▲印象派を超えてのチケット。

なお、オンラインチケットをご持参いただいたお客様も、会場入口でオリジナルのチケットに交換させていただきますので、どうぞご安心ください。

(MM)